

## 大石田分署に救急車の配備を

町長…財政面で難しい



小林 征雄 議員



望まれる救急車の配備

町の安心、安全を常に強調している町長、実際に本腰を  
11月に自宅前の路上で心筋梗塞で急死する事故が今宿であった。  
救急隊によるAED処置が後3分早かったらとの思いは強い。  
これまで何人も議員が取り上げてきたがいまだ実現していない。実現に本腰を入れて取り組んではどうか。

やれない、無理だという考えが前段にあってはアイデアも、妙案も出てこない。絶対にやるんだと考えてこそ知恵、工夫が生まれる。分署に救急車を配備しても全体の仕事の量はまったく増えることはない。年5〜6回の火災出動しかない分署隊員に任務を与え、年1000回も出動し忙しい本署隊員の仕事を減

町長 現在の常備消防体制は本署に総務部門8人、隊員14人、2班の28人、計36人、大石田分署に分署長1人、隊員5人、2班の計11人で合計で47人体制です。新たに救急車を配備するには最低でも6人の増員が必要になるとの見解です。設備の面では高規格救急車1台3800万円、救急用品、その他合わせると4500万円、更に格納庫などの増改築費用などを考えると億単位の費用が必要と見込まれ尾花沢市との協議、合意が大前提であることを考えると非常に難しいと思います。



米政策の改善を

らすことができる。一挙両得で本署隊員にも喜ばれること必至だと思ふ。現在ある3台の救急車の1台を配備するだけで現人員でも十分できるはずだ。分署の格納庫スペースもある。町長のやる気しだいでは。  
町長 今後とも町民の安心、安全に向けた取り組みには本腰を入れていきます。

農家経済は疲弊している原因ははっきりしている。減反を守らない生産者による過剰作付けが全国的に拡大しているからだ。大石田町の生産者のように長年100%達成してきた正直者がバカを見ている、こんな政策であってはならないと強く思う。現場の声を国、県に強力に届けてほしい。  
町長 ご指摘のとおりです。県内自治体と連携を図りながら国、県へ強力に働きかけていきます。



整備が進む流雪溝

乗合タクシーは交通弱者の足の確保にとどまらず、運行時間や経路を変えて利用者の利便をはかり需要を拡大できないか。町長 乗合タクシーは利用者の減少で年度内に休止する計画です。新たに「高齢者タクシー制度で  
子供の医療費無料化は病院の窓口で済むよう改善できないか。  
町長 子供の医療費の支給方法の改善は事務手続きの上で困難な課題です。  
探算あわず福祉を後退させれば人口減少につながるのでは  
おとしよりの命綱の安心ネットを無料に戻す考えはないか。  
町長 利用者の同意を得て有料制度にしました。

必要のある方に効果のある行政サービスをしませる。望まれる町内全域への流雪溝の整備  
雪の苦勞を少なくし、雪の苦勞で町を出ていく人を少なくし、人口の減少をくいよめるべきです。流雪溝整備の短期・中期・長期の展望や全体計画年度ごとの計画を明らかにし、今よりも住みやすい町になる希望を与えることはできないでしょうか。  
町長 大石田地区は平成20年度、横山地区は平成24年度をめぐりに、岩ヶ袋地区は平成21年度に着手平成27年度をめぐりに完了したいと考えています。その他の地区も国・県と十分に協議し、早期の実現を図りたいと考えています。財政事情から



介護予防教室の様子

時間も必要です。後期高齢者医療制度の撤廃を国に求める考えは年金から保険料を天引きし滞納すれば保険証を取り上げる、75歳以上の方に過酷な制度です。年  
齢で医療差別する制度は撤廃すべきではないか。  
町長 現在の国保税のよきな滞納の心配はありません。法律に抵触する行為は自治体として対応できないと考えます。



遠藤 宏司 議員

## 安心・安全にくらしせる町の福祉策は町長：福祉全般にわたり利用者負担が原則